

ぐるめ散歩

そば

そば処 江戸藤

若者から高齢者まで様々なお客の好みに合わせて創作したオリジナルのそばやうどんを提供するほか、地酒やつまみが楽しめる。

メニューは、定番のたぬき、かも南ばん、天ざるなどの麺類、親子丼、かつ丼などの丼物など約50種を数える。季節に合わせて冬は温かいすき焼きうどんなど、夏は冷たい梅みぞれそばなどを提供する。また、西側にある東京慈恵会医科大学附属第三病院へ治療に来る人が多いため、オリジナルのえのき茸と豆腐のかき玉



笠原栄一さん

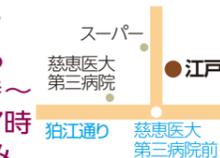
☎ 3488-5467
和泉本町4-10-6
営業=午前11時～
午後2時/5時～7時
日曜・祝日休み

同店オリジナルの多彩なメニュー 毎日自家製麺するそば・うどん



などやさしい味付けのそばやうどんを出したり、若い人向けのボリューム感のある定食やセット、そばと一緒に楽しめる全国の地酒と軽いつまみも人気がある。

同店は、横浜の老舗そば店で修行した先代店主の笠原栄吾さん(86)が昭和53年に独立して開店。現在は息子の栄一さん(59)が調理や



メニュー開発などをしている。

そばとうどんはその日の気候に合わせて粉や水の量、練り方などを工夫し、早朝から自家製麺している。そば粉は実の中心に近い部分を使うようにしている。だし汁に使う削り節、天ぷら油、しょう油なども吟味している。

平成24年にリニューアルした4人掛けのテーブル5卓の店は、昼時は多くの客でにぎわう。

栄一さんは20年ほど前に作詞した曲「さんぽにいこうよ」を、現在プロとして活動している学生時代のバンド仲間の作曲家や歌手と今春CDを製作、配信も始め、お客にも好評だという。

おすすめMENU

①えのき茸と豆腐のかき玉¥1,290 ②カルビ井とおそばのセット¥1,240 ③タヌキ豆腐¥490 ④梅水晶¥490 / たぬき¥740 / ざる¥740 / 天ざる¥1,590 / すき焼きうどん¥1,490 / 親子丼¥1,090 / かつ丼セット¥1,590(税込み)

かわまちづくり 社会実験 多摩川生かし 『狛江時間』



ふわふわスライダーやテントで遊ぶ家族連れ (10月6日)

かわまちづくり社会実験が10月5日(土)、6日(日)、12日(土)、13日(日)、26日(土)、27日(日)の延べ6日間にわたって、多摩川河川敷の自由ひろば付近と小田急線多摩川鉄橋付近で催された。

狛江市は今年3月に「狛江市かわまちづくり計画」を策定した。計画は、多摩川を中心とした「かわ」と「まち」の様々な資源や魅力を生かし、市外から訪れる人にとにぎわいを創出し、市民と来訪者双方に親しまれることをめざしたものだ。

8月には、国土交通省の「かわまちづくり」に計画が登録された。実験では多摩川の豊かな自然と空間を生かしたイベントが実施された。

ゴム製の1人乗りカヤック体験では操船方法を習った子どもたちが川にこぎ出して操船を楽しんでいた。このほか、カナディアンカヌー、SUPの体験も人気をよんでいた。

河川敷ではヨガ、打楽器ワークショップなどが日替わりで行われた。また、大きなふわふわスライダーを設置したほか、たこ、縄跳びなどの貸し出しが行われ、子どもたちが河原を走り回っていた。また、書架を置いて好きな本が読めるようにしたり、日替わりで飲み物や軽食の販売を行った。

期間中は夏を思わせる日や寒い雨の日もあったが、訪れた人たちは川風に吹かれながら、ゆったりとした「狛江時間」を楽しんでいた。



1人乗りカヤックを体験 (10月13日)

は川風に吹かれながら、ゆったりとした「狛江時間」を楽しんでいた。

活性化めざしいずみ市開催 6年振りフリーマーケット

和泉多摩川商店街にある小さな空き地で10月6日(日)にフリーマーケットのいずみ市が催され、市内の商店や子どもなど12店が衣類やアクセサリ、雑貨などの販売、提灯づくりなどのワークショップ、ポートレート撮影などを行った。

地域を活性化させるきっかけにしようと商店街に関わる有志が平成30年に初めて企画・主催し、多くの人が訪れ、好評だった。今回は6年振りに和泉多摩川商店街振興組合の主催で開いた。訪れた人たちは出店者と言葉を交わしながらショッピングを楽しんでいた。

主催者では、商店街を知っても



にぎわういずみ市

らうきっかけにするため定期的に開きたいと話している。



24日に「ハマのドン」上映会 まちづくり考えるきっかけに

まちづくりについて考えるきっかけにしてほしいと、「ハマのドン」上映会が24日(日)に西河原公民館で開かれる。

元狛江市議会議員で「ふるさと狛江を考える会」代表の山田拓史さんが企画、キタコマ映画祭(喜多見と狛江の小さな映画祭+α)と共催する。

映画は、令和元年に横浜港へのカジノを含む統合型リゾート(IR)誘致を阻止するために立ち上がった「ハマのドン」こと当時91歳の藤木幸夫さんに焦点を当てたドキュメンタリー。「博打だけはだめ」と考えた藤木さんが住民投票条例に署名した市民の力をバックに、「主権は官邸にあらざ、主権在民」をスローガンに、横浜市長選に無名の新人を立て、現職市長と首相の側近の現職閣僚候補と戦った記録。テレメンタリー最優秀賞、放送人グランプリ優秀賞、ドイツWorld Media Festivals銀賞を受賞した。民放の報道番組プロデューサーだった松原文枝さんが監督を務めた。山田さんは「選挙という政治的な面だけではなく、これからの開発やまちづくりはどうあるべきか、住民が経済的な恩恵や幸福感を味わえるかなどについていろいろ考えさせられる映画です」と話している。

上映は午前10時30分と午後2時で、いずれも監督トークと質疑応答も行われる。参加は500円で、できるだけ事前に申し込む。申し込み・問い合わせは☎090-2314-0166山田さん。

ヴァイオリンの魅力紹介

「弦楽器の魅力」をテーマにした「おんまちラボ」がスタートした。9月25日(日)の第1回はエコルマホールで、沖縄出身で京都在住のヴァイオリニスト・作曲家の大城敦博さんが一般的な4弦ヴァイオリンとヴァイパー(電気ヴァイオリン)、琉球ヴァイオリン、6弦ヴァイオリンについて解説したほか、ゲストのヴィオラ・ダ・ガンバ奏者の中野潔子さんと共演、ヴァイオリン属との違いを説明。クラシックヴァイオリン、アイリッシュフィドル、琉球ヴァイオリンなど世界各地の楽器を演奏した。

今回は12月4日(日)に北インドのディルバ、来年2月17日(日)に中国の二胡を取り上げる。時間は午後7時で、受講料は各回500円。

問い合わせ☎3430-4106(一財)狛江市文化振興事業団。

つなげよう 音楽の架け橋



ヴァイパーを演奏する大城さん

総合カウンターに絵手紙ポスト設置

市役所2階の総合カウンターに、絵手紙作家で狛江市名誉市民の小池邦夫さん(故人)にちなんで小型の絵手紙ポスト(写真)が設置され人気を呼んでいる。



ポストは高さ28cm、幅30cm、奥行き22cmの本体と、富士山の絵手紙をあしらった葉書大の半円形の置物を組み合わせたデザイン。住民交流友好都市の山梨県小菅村の木を使い、小池さんの作品をレーザーで焼き付けてある。表面は木の風合いを出すため、のみで彫ったように仕上げている。

製作したのは、小池邦夫ギャラリーにあるポストも手がけた松澤徳一郎さんで、「小池さんの温かいまなざしをイメージし、円形のカウンターにも合うデザインにしました」と話している。

市では「気軽に絵手紙をポストに入れてください」と市民に呼びかけている。(郵便物は投函しないでください)